

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市で女子にやさしい学習環境が整い、住民のジェンダー平等の意識が高まる。</p> <p>本事業は、3年事業のうちの第2年次であり、第1年次から事業を行っていたラ・ティンタ市では、ジェンダートレーニングを受けた関係者は、女子にやさしい・理解のある環境が整備されるように活動を行っている。女の子たちも主体的に自分たちの就学の権利について声を上げ、意識啓発活動や行政への提言書提出などを行っていることから、ジェンダー平等の意識が高まっていると考える。第2年次から事業を始めたチュクル市でも、関係者はジェンダー平等、女の子の就学機会の平等について、より広い理解が得られるように活動を計画しており、3年次での自主的な活動を予定している。また、小学校4校に計7棟の衛生設備を建設し、対象校の女の子全員が衛生環境が改善されたことを実感していることが確認された。</p>
(2) 事業内容	<p>1. コミュニティにおける能力強化</p> <p>1-1 ジェンダートレーニング (添付資料トレーニング・リスト参照)</p> <p>1-1-1 女子クラブ (チュクル市)</p> <p>対象5コミュニティにて、当初の目標人数175人に対して、190人の受け入れを行い、計画した全13回のトレーニングを行った(変更報告2号にて回数を10回から13回に増加)。</p> <p>参加延べ人数は2,202人に上り、対象地の女の子たちが高い関心を持って、事業に参加したことが確認できた。多くの女の子からは「学校や家では教えて貰えないジェンダー平等や衛生について学ぶことができて良かった」との声が挙げられた。</p> <p>1-1-2 保護者 (チュクル市)</p> <p>1-1-1の女子クラブの設立(当初の計画数:175人)に合わせて、233人の保護者の受け入れを行い、対象5コミュニティにて計画した全4回のトレーニングを行った。参加延べ人数は766人、各回平均192人の参加があり、特に母親の参加が多かった。4回のトレーニング終了後には参加保護者の中からジェンダー平等促進員が選定され、コミュニティ・リーダーとともに「女の子が学校に行きやすい環境作り」のために何をすべきか話し合った。</p> <p>1-1-3 教師 (チュクル市)</p> <p>教師30人に対して、計画した全6回のトレーニングを実施した。参加延べ人数は144人、各回平均で24人の参加があった。トレーニングを受けた教師たちは各自の学校にて、ジェンダー平等を促進する活動を行った。</p> <p>1-1-4 男子 (チュクル市)</p> <p>対象5コミュニティにて、男子140人(当初の計画数:125人)に対して、計画した全13回のトレーニングを終了した(変更報告2号にて回数を10回から13回に増加)。参加延べ人数は1,564人で、各回平均で120人の参加があった。トレーニングを通して、参加者のジェンダー平等の理解が深まり、ジェンダーに基づく暴力に関する意識の変化が見られた。</p> <p>1-1-5 コミュニティ・リーダー (チュクル市)</p>

コミュニティ・リーダー30人（各コミュニティ6人×5コミュニティ）を対象に、計画した全3回のトレーニングを実施した。延べ参加人数は72人で、ジェンダー平等やコミュニティでの女性のリーダーシップ等について理解を深めた。

1-1-6 地方行政官（ラ・ティンタ市、チュクル市）

対象2市の教育担当官を含む地方行政官30人（各市15人×2市）を対象に、チュクル市では計画した全3回、ラ・ティンタでは計画した全2回のトレーニングを実施した。チュクル市では延べ38人が参加し、教育省の監督官からの市の就学の現況についての発表や、参加者同士でジェンダー不平等に起因した問題を議論した。

ラ・ティンタ市では市長の交代などもあり、2回の参加延べ人数が19人であった。トレーニングに参加できなかった地方行政官に対しては、当事業のファシリテーターが市役所などを個別に訪問し、ジェンダー平等についての意識啓発の活動を促進するための議論をおこなった。

1-2 ジェンダー指導者養成トレーニング

1-2-1 女子生徒、男子生徒（ラ・ティンタ市）

本活動は、1-2-2 通学していない女子と男子対象のジェンダー指導者養成トレーニングと合同で活動を行った。女子クラブメンバー179人および男子131人に対し、全5回のトレーニングを実施した（変更報告第6号にて、当初4回だったトレーニング回数を1回追加）。参加した延べ人数は1,298人で、各回の平均参加者数は260人であった。4回目のトレーニングでは学校での「ジェンダー平等」を啓発するイベントを企画・実施し、5回目のトレーニングでは国際ガールズ・デーに関連して、コミュニティでの「ジェンダー平等」を啓発するイベントを企画・実施した。子どもたちの発案もあり、平等をテーマにした絵のコンクールやスポーツ・イベント、劇などが実施された。

1-2-2 通学していない女子と男子（ラ・ティンタ市）

上記にて記述。

1-3 学校改善計画の策定指導（ラ・ティンタ市、チュクル市）

ラ・ティンタ市、チュクル市の対象10校の教師68人に対し、計画した2回のトレーニングを実施した。教師は、女の子が学校へ通学しやすいように衛生設備を清潔に維持・管理すること、ジェンダー平等を啓発するイベントの実施などを計画し、計画通りに実施した。

2. コミュニティ啓発活動

2-1 啓発活動トレーニング

2-1-1 ジェンダー平等促進員（ラ・ティンタ市、チュクル市）

2-1-2 コミュニティ・リーダー（ラ・ティンタ市、チュクル市）

本トレーニングは対象の各市（ラ・ティンタ市、チュクル市）にて、1-1-2で選定されたジェンダー平等促進員10人、コミュニティ・リーダー40人を対象に合同で実施した。合同にした理由は、通常コミュニティにある役員会の中に子ども（教育）担当の委員会が設けられており、ジェンダー平等促進員がこの役員会のもとで活動することが重要と判断されたためである。

いずれの市でも計画した2回の啓発活動トレーニングを実施し、参加延べ人数は163人であった。チュクル市の啓発活動トレーニングでは、既に活動を行っているラ・ティンタ市のコミュニティでの活動事例が

	<p>紹介され、先例を参考にチュクル市でも「女の子が学校に行きやすい環境作り」のための活動計画が話し合われた。</p> <p>2-3 国際ガールズ・デーイベントの開催（ラ・ティンタ市） 10月11日の国際ガールズ・デーに関連して、ジェンダー指導者トレーニングに参加した女子および男子が5つのコミュニティにてイベントを計画し、実施した。コミュニティ住民が多数参加し、コミュニティでのジェンダー平等を考える機会となった。</p> <p>2-4 啓発キャンペーンの実施（ラ・ティンタ市） ジェンダー平等、とくに女の子の就学機会の平等についてのポスターの配布を行った。第2年次はラジオを通じたジェンダー平等啓発のメッセージの発信を行わない予定だったが、自己資金を用いて11月後半より地元のラジオ局を通して、女の子の就学機会の大切さを広めるメッセージを発信した。</p> <p>3. 学習環境の改善</p> <p>3-1 対象10校の衛生設備（トイレ・手洗い場・多目的洗い場）建設／修繕（ラ・ティンタ市、チュクル市） 対象コミュニティから選定した小学校4校（各市2校）に、計7棟の衛生設備を建設した。</p> <p>【注記】 受理された申請書本文には合計5棟を建設する旨、記載していたが、正しくは参考資料として一緒に提出したリスト（参考資料「衛生設備建設対象校リスト」など）にある7棟で事業を実施した。</p> <p>3-2 維持管理トレーニング（ラ・ティンタ市、チュクル市） 建設する衛生設備が適切に使用・維持管理されるよう、工事が終了した8月に、対象4校の生徒と教師を対象に維持管理用の清掃用具を納入し、トレーニングを行った。</p> <p>4. その他</p> <p>4-2 事業関係者ワークショップ（ラ・ティンタ市、チュクル市） 1月下旬に、両市にて現地教育担当官等の地方行政官、コミュニティ・リーダーを招き、事業開始ワークショップを実施した。</p>
(3) 達成された成果	<p>上記のように、事業期間中、計画した全ての活動を実施した。活動を通して、達成された成果は下記の通りである。</p> <p>1. コミュニティにおける能力強化 1年次と同様に、経済的理由による対象コミュニティからの移住があることなどを考慮し、参加者希望者を多めに受け入れることで、指標として設定した参加者数を達成できるように努めた。</p> <p>指標： 【チュクル市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子クラブのジェンダートレーニング受講者（以下「女子クラブ受講者」）の80%が10回のジェンダートレーニングを修了する： ⇒97%の女の子がトレーニングを修了した（計画人数175人（各コミュニティ:35人）に対して、170人が修了。トレーニングは回数を13回に増やして実施）。 <p>対象5コミュニティにてジェンダー平等、自尊心などのテーマに</p>

ついて1年次からトレーニングに参加している女の子たちの関心が失われることなく、目標の指標を達成した。

- ・ 女子クラブ受講者の80%がジェンダーについて理解し、トレーニング後テストで正答率が80%以上になる：
⇒13回のトレーニングで取り上げられたキー・メッセージについて、事後テストを実施し（例えば「女の子の自尊心」であれば、「女の子は男子より劣っていると思うか」の質問に対して「はい」か「いいえ」で回答）、86%が正答率80%以上であることを確認した。
- ・ 女子クラブ受講者の80%が人生の目標を設定する：
⇒90%の女の子（計画人数175人に対して157人）が「先生になりたい」「警察官になりたい」などの人生の目標を発表した。
- ・ 教師の80%が全てのジェンダートレーニング（6回）を修了し、学校におけるジェンダー平等の定義3点を把握する：
⇒80%の教師（計画人数30人に対して、24人）が6回のトレーニングを修了し、ジェンダー平等を学校で教えるために必要な3点（①差別しない②相手を尊敬する③包摂）について理解した。またトレーニングを受けた教師たちは子どもたちに対して上記の3点について教える授業を行った。
- ・ 男の子の80%が全てのトレーニング（10回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が80%以上になる：
⇒96%の男の子（計画125人に対して120人、トレーニングは回数を13回に増やして実施）がトレーニングを修了した。また各トレーニングで学んだ「相手を敬うこと」、「女の子に対しての暴力はいけない」などのキー・メッセージ理解度について、事後テストを実施し、99%の男の子が内容の80%以上を理解したことを確認した。
- ・ 保護者の80%が全てのトレーニング（4回）を修了し、女子クラブトレーニングへの参加をサポートする：
⇒110%の保護者（計画人数175人に対して192人）がトレーニングを修了し、子どもたちがトレーニングに参加することの大切さを理解し、参加をサポートした。
- ・ 地方行政官の80%が全てのトレーニング（3回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が80%以上になる：
⇒87%の地方行政官（計画人数15人に対して、13人）が全てのトレーニングを修了し、トレーニング後の確認テストで、全員がジェンダーに起因した不平等の不公平さや女の子の就学を支援することなどの大切さを100%理解した旨を確認した。結果として、活動が先行するラ・ティンタ市に倣い、行政機関が連携して「女の子を学校へ」のキャンペーンを実施することを決定し、3年次に活動を行う予定である。

【ラ・ティンタ市】

- ・ 地方行政官の80%が全てのトレーニング（2回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が80%以上になる：
⇒2回のトレーニングでは、6月に実施された市長選で市長の交代が決まるなどの影響で、行政官の参加が不規則となり、行政官の53%が全てのトレーニングを修了し、内容の理解度は100%であった。このため、1年目からジェンダー平等を促進することに賛同している行政事務所（市役所、教育省など）を個別に訪問し、ジェンダー平等、とくに女の子の就学機会の促進について、取組んでいる活動があるかを確認する話合いを持ち、1年目に学んだジェン

ダー平等のキー・メッセージの大切さが継続して理解されているかを確認した。市役所では、市長交代後も本事業に継続して参加し、子どもたちの就学の機会を増やすために出来ることに取り組む旨、説明があった。

- ・ ジェンダー指導者養成トレーニング受講者がジェンダー格差を改善するための提言書を地方政府に提出する：
⇒トレーニングを修了した女の子の代表者が中心となり、提言書を教育省ラ・ティンタ市支部、市役所へ提出した。提言書を踏まえ、教育省監督官は制服の着用強制や不透明な共益費の徴収を行わないように、市の各小学校を指導することを約束した。また市役所も女子の就学を支援するメッセージを機会がある毎に発出することを前向きに考えると話した（注：2020年1月15日より新市長が就任したため、本事業では引き続き働き掛けを行う予定である）。

2. コミュニティ啓発活動

指標：

【ラ・ティンタ市】

- ・ ジェンダー平等促進員、コミュニティ・リーダーが全てのトレーニング（2回）を修了する：
⇒延べ74人（計画：計80人）が2回の活動に参加した。2回目のトレーニングでは、各コミュニティにおける女の子が学校に行きやすい環境作りのために行った活動について共有した。
- ・ ジェンダー平等促進のための啓発イベントが開催される
⇒ジェンダー指導者養成トレーニングを通じて、子どもたちはジェンダーに起因する不平等について話し合い、学校とコミュニティにてジェンダー平等を促進する啓発イベントを行った。教師たちが作成する学校改善計画の活動と関連し、今後も毎年定期的にジェンダー平等をメッセージにした啓発イベントを行っていくことが協議されている。
- ・ ジェンダー平等啓発メッセージがラジオを使って放送される：
⇒事業に参加している女の子たちは、地方行政官向けのトレーニングでジェンダー不平等に起因した問題を考えてきた教育省、市役所らと「一人でも多くの女の子を学校へ」のメッセージを広めるため、11月後半からラジオを通じて、メッセージを流すことを始めた。これは、1月からの新学期に向けて女の子の就学を働きかけるためである。この活動は、3年次に計画されているラジオ放送を通じた啓発活動計画に先駆けて行われた。

3. 学習環境の改善

指標：

【ラ・ティンタ市、チュクル市】

- ・ 対象4校の衛生設備が建設・修繕される：
⇒対象2市、4校にて7棟の衛生設備が建設され、学校への引渡しが行われた。
- ・ 対象4校に通う女の子の80%が学校の衛生環境の改善を実感する：
⇒引渡し時、また維持管理トレーニング時に行った聞き取りでは対象校の女の子全員が衛生環境が改善されたことを実感していることが確認された。
- ・ 対象校の生徒の80%が衛生設備の維持管理方法を知っている：

	<p>⇒維持管理トレーニングを通して、学校では清掃当番制度をつくり、全ての生徒は当番として設備を管理していくことが確認された。</p> <p>4. その他の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラ・ティンタ市では、教育省の市支部により対象小学校以外の教師対象に本事業で作成した教材を使用してジェンダー平等についてのトレーニングが実施され、3年次にはチュクル市でも教育省主導で対象小学校以外の教師を対象としたトレーニングが計画されている。 ・ 中学校へ進学する女の子が数名のみであったチュクル市のコミュニティにて、ジェンダートレーニングに参加したコミュニティ・リーダー、保護者が行政に働きかけ、2020年に中学校が開校された。現在、25人の生徒が学んでいる。 ・ ラ・ティンタ市の小学校の校長、教師が、中学校への進学相談を実施するなど、女の子の就学を促進する自主的な取り組みを開始した。 ・ ラ・ティンタ市のコミュニティで、ジェンダー平等促進員が始めた「女の子が学校に行きやすい環境作り」の活動により、11人の女の子たちが学校に復学した。 ・ 対象10コミュニティの女の子の中学校への就学をコミュニティのジェンダー平等促進員が確認したところ、全てのコミュニティにて小学校から中学校へ90%以上の就学が確認された。 <p>事業は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標4.「質の高い教育をみんなに」、目標5.「ジェンダー平等を実現しよう」に寄与したと考えられる。</p> <p>直接裨益者数：4,395人 間接裨益者数：89,378人（対象2市の人口）</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業の終了後も、事業の効果が持続あるいは発展されるように、以下の活動を実施した。またこれらの活動は3年次も引き続いてモニタリングを行い、対象地に根付いていくように支援していく予定である。</p> <p>1) 建設された衛生設備の維持管理： 引渡し時に学校に納入された施設が継続して大切に使われるように学校側に説明し、理解を得た。また、教師と生徒を対象に維持管理トレーニングを行い、設備が適切に清掃、維持管理される体制を構築した。</p> <p>2) 学校でのジェンダー平等への理解を促す活動の継続： ラ・ティンタ市では1年次に教師により策定された学校改善計画に基づいて、教師や子どもたちが主体となり、ジェンダー平等への理解を促す活動（学校単位での啓発イベントなど）が実施された。2年次の教師向けのトレーニングでも学校改善計画が作成されており、3年次でも同様に啓発イベントを実施する予定である。これにより各学校で啓発イベント実施の定着を図る。 また3年次には、チュクル市でも、学校改善計画が策定され、各校で啓発イベントを実施予定である。当事業でのモニタリングを通して、学校が主体的に活動を継続できるように助言を行う。</p>

	<p>3) コミュニティ内でのジェンダー平等の促進について： 2年次は、ラ・ティンタ市ではコミュニティ・リーダーとジェンダー平等促進員らが、女の子が学校に行きやすい環境を整備するための活動を行った。対象5コミュニティの代表者が集まり、それぞれの活動を発表した。3年次もお互い励みにしながら、活動を行っていく予定である。またチュクル市でも、各コミュニティで女の子が学校に行きやすい環境を整備する活動が協議され、3年次に子どもが学校に行っていない家庭への訪問などが行われることとなった。当事業でのモニタリングを通して、コミュニティ・リーダーやジェンダー平等促進員らが主体となり、これらの活動を継続していけるよう助言を行う。</p> <p>4) 市単位での「女の子を学校へ」キャンペーンの実施： ラ・ティンタ市では啓発ポスターの掲示やラジオでのメッセージ放送などを行っており、この活動は第3年次開始直後にチュクル市でも実施する。 2020年1月に、ラ・ティンタ市では市長、教育省担当官が変わったが、これまでの事業について新しい担当者に説明し、引き続いてジェンダー平等の大切さへの理解がされるように働き掛けていく予定である。</p>
--	--